

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業では、「日米をつなぐNU⁴-COIL²～地域に根差したテイラーメイド型教育プログラム～」を構想として掲げ、本学の国際化ビジョンに基づいた、多文化共生力、学際的国際力、問題発見・解決力を備えた「Nanzan University Career Oriented Interactive Leadership」人材の養成を目的とし、COIL型授業と留学プログラム・インターンシップを連動させた3つのプログラムを展開してきた。

1. 3つの連動プログラムの進捗状況

(1) **短期留学（派遣・受入）とベーシックCOILの連動プログラム**：短期留学（派遣）については、事業初年度に「NU-COIL短期留学プログラム」を新設し、短期留学（受入）については、外国人留学生別科サマープログラムに8連携校からの外国人学生を受入れた。いずれも、留学前に本学と連携校で実施するベーシックCOILの受講を義務づけ、多文化共生力を養う短期留学（派遣・受入）とベーシックCOILの連動プログラムを構築した。

(2) **長期留学（派遣・受入）とアカデミックCOILの連動プログラム**：8連携校すべてと学生交流協定を締結し、長期留学（派遣・受入）を計画どおり実施した。両国の学生に、長期留学前にアカデミックCOILの履修を義務づけ、学際的国際力を養う長期留学（派遣・受入）とアカデミックCOILの連動プログラムを構築した。留学前に日米間の政治、経済、文化などの専門科目をCOIL型授業によって学習することで、留学先で専門科目を受講する際の言語と研究両面の障壁をなくすと同時に、文化背景の違う者同士の協働作業に必要なスキルや心構えの修得に繋がった。

(3) **愛知県の産官学連携によるインターンシップとPBL COILの連動プログラム**：長期留学（派遣）学生には留学先周辺にある連携企業へのインターンシップ、長期留学（受入）学生には愛知県の企業、団体、官公庁へのインターンシップの機会を提供した。長期留学中にインターンシップに参加した学生が、インターンシップの学びを帰国後も継続できるように、PBL COIL科目を新設した。日米ビジネスの現場に触れて問題発見・解決力を養う産官学連携によるインターンシップとPBL COILの連動プログラムを構築した。

2. 学生モビリティの進捗状況：派遣・受入学生数はいずれも目標値を上回った。2018年度は長期8名・短期10名を派遣し、長期9名を受入れた。2019年度は長期12名・短期92名を派遣し、長期15名・短期16名を受入れた。

3. COIL型授業科目数と履修者数の進捗状況：科目数、履修者数いずれも目標値を達成した。①**科目数**：2018年度は、連携校との目標1科目に対し実績は2科目、大学全体では目標3科目に対し実績は5科目であった。2019年度は、連携校との目標13科目に対し実績は25科目、大学全体では目標17科目に対し実績は38科目であった。②**履修者数**：連携校とのCOIL型授業について、2018年度は、日本人学生が計画20名に対し実績90名、外国人学生は計画15名に対し実績50名であった。2019年度は、日本人学生が計画260名に対し実績410名、外国人学生は計画195名に対し実績475名であった。

4. プログラム運営体制の構築：本事業の戦略的方向性を立案・点検する①**NU-COIL学内運営委員会**、円滑な事業運営をサポートする学内横断的な②**NU-COILサポートチーム**、米国8連携校コーディネーターと本学関係者で構成される③**NU-COIL連携協議会**、4名の有識者で構成される④**NU-COIL外部評価会議**、連携企業等関係者で構成される⑤**NU-COIL産官学協議会**を、いずれも事業初年度に計画どおり構築した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

2018年度				2019年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
16	18	6	9	100	104	27	31

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**1. COIL型授業とモビリティを連動させたグローバル人材養成プログラムの確立**

本事業では、①短期留学とベーシックCOIL、②長期留学とアカデミックCOIL、そして③インターンシップとPBL COILの3つのプログラムを連動させ、この3つのプログラムを一人の学生が段階的に参加できる交流プログラムを確立した。まず1年次に、ベーシックCOIL授業を履修したのち3月に実施される短期留学プログラムに参加できる。その後2・3年次に、アカデミックCOILを履修し9月から長期留学へ出発する。長期留学中にインターンシップの経験を得て翌年5月に帰国する学生は、第3クォーター(9月)以降に開講されるPBL COILを履修し、Career Oriented International Leadership人材となる。

2. NU-COIL短期留学プログラムの確立

事業初年度に、NU-COIL短期留学プログラム（ノースジョージア大学）を新設し、10名の学生が参加した。毎年3月に実施する本短期留学プログラムでは、派遣先の学生と留学前の6週間、COIL型授業を通じて協働学習を行い、現地では同大学のプロモーションビデオを共同制作するという課題に取り組んだ。留学前に、前半3週間を日本語、後半3週間を英語で交流したことで、両国学生に外国語によるコミュニケーションの自信を深めさせ、相手国への親近感を向上させることができた。参加した本学学生からは、渡航前に交流した米国学生が現地でバディ

になってくれたことで、現地での協働プロジェクトの完成度も高く、短期間にもかかわらず質の高い充実した留学になったとのフィードバックが得られた。

3. 地元企業等と連携したPBL COILの実施

長期留学から帰国した学生が履修する「国際産官学連携PBL科目（PBL COIL）」を2019年度に3科目新設し、日米で合計46名の学生が履修した。複数の連携企業・官公庁から課題提供を受け、日米双方の学生は両国の視点を取り入れた提言を企業等に直接行った。参加学生は、日米ビジネスに精通した担当者との継続的なヒアリングやフィードバックを通して、グローバル人材に必要とされる問題発見・解決力を向上させることができた。一方で、本産官学連携プロジェクトは企業等にとっても有用性が示されており、担当者から「既成概念にとらわれない自由でグローバルな意見から、商品開発に繋がる新しい視点を得た」「社員教育の課題でもある、モチベーションや自発的な取り組みの姿勢へのヒントを得た」として高い評価を受けた。また、ビジネス上の異文化コミュニケーションに焦点を当てた連携プロジェクトでは、日米の学生が議論した内容をまとめた冊子が社内で保管され、米国拠点へ駐在予定の社員が事前を読む参考資料として役立てられている。さらに、学生の企業等への成果発表会を学内教職員・学生に一般公開して学習成果の普及を図った結果、PBL COIL科目の認知度が向上し、2020年度の日本側履修希望者が前年度から3倍以上の延べ69名だった。

**4. 連携校コーディネーターによるアメリカDayの開催**

大学間ネットワークを充実させ、モビリティの促進にも繋げるため、「NU-COIL連携協議会」を毎年度開催し、米国8連携校からコーディネーターや国際オフィス職員を本学に招聘した。本連携協議会開催の機会に、連携校への留学を促進するための「アメリカDay」を開催した。各コーディネーターによる大学説明会と個別相談会の2部構成で行われ、米国留学を志す1・2年生や翌年度に留学することが決定している学生のおよそ30名が参加した。各大学ブースでは、受入学生や帰国した先輩学生による大学の特色紹介や、国際オフィス職員等による留学準備

に向けた専門的な助言が行われた。本留学促進フェアは学生同士のネットワーク構築を促し、留学をより現実的なものとしてイメージさせる上で高い効果があり、連携校への出願に繋がった。